[dõ:k]

DONC どんく

発行
三重日仏協会
SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE
事務局 津市東丸之内21－4 オーデンビル
3F／Siege : Oden Building 21-4
Higashi Marunouchi Tsu JAPON

N° 43 janvier 1998 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

アラン・ナウム総領事が新年のメッセージ

昨年夏、大阪・神戸駐在フランス総領事に就任されたアラン・ナウムさんより三重日仏協会会員に宛てて新年のメッセージをいただきましたのでご紹介いたします。

Il m'est particulièrement agréable d'adresser, par l'intermédiaire du magazine "DONC", mes meilleurs voeux pour 1998 à tous les membres de la Société franco-japonaise de Mie dont chacun connaît le dynamisme exemplaire.

Cette association joue, en effet, dans la préfecture de Mie un rôle essentiel dans le développement et l'approfondissement des relations avec la France. J'adresse à ses responsables et à tous ses membres mes félicitations et mes remerciements chaleureux.

A Nahoum

Alain Nahoum

三重日仏協会会報「DONC」を通じ、協会員の皆様方に新年のご挨拶ができますことは、私にとりまして大いなる喜びでございます。

三重日仏協会のダイナミズムは、誰もが認めるところでございますが、事実、フランスとの友好関係を発展、深めることにおいて中心的な役割を果たしておられます。役員の方々をはじめ、会員の皆様方のご活躍に心より称賛と感謝の意を表し、ご挨拶とさせて頂きます。

大阪・神戸駐在フランス総領事
アラン・ナウム

フランスにおける日本年
盛況のリヨン「日本フェスティバル」

箏曲演奏と視察団　三重日仏協会

フランスにおける日本年・リヨン市の「日本フェスティバル」は11月18日から23日まで、同市のベルクール広場特設会場を中心に繰り広げられ、三重日仏協会も同フェスティバル実行委員会の要請によって、三重県の邦楽演奏家一行と視察団をボランティアで派遣するなど、その成功に貢献しました。特設会場内には書道、囲碁、茶道、折り紙、生け花などさまざまの日本文化を紹介するコーナーが設けられ、期間中、主催者の推定で約15,000人が会場を訪れて熱心に見学したり、それぞれの簡単な手ほどきを受けたということです。

浜田文登勢さんら箏曲の演奏家たち（A班・事務局含め10名）は、1. サンジャン大聖堂の大ミサのなかで（16日）。2. フェスティバルの開幕式典（18日）。3. 4. モリエール・ホールでのラヴェル弦楽四重奏団とのジョイント・コンサート（20日、22日）と四回の演奏を披露し、リヨンの音楽ファンに大きな感銘を与えました。特に今回のコンサートのために作曲されたヤセン・ボデニチャロフ氏（パリ在住のブルガリア人新進音楽家）の『琴と弦楽四重奏のための緑の島への2章』の初演は大きな注目を浴びました。

また本会会員らフェスティバル視察を主な目的としたB班10名も、4日間のリヨン滞在のあと、ボジョレ地区やパリなどを訪問、広く日仏交流を深めました。

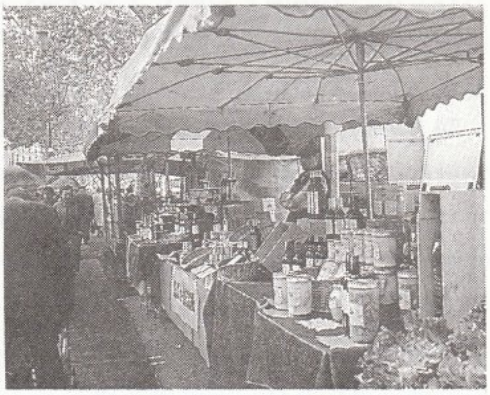
ラヴェル弦楽四重奏団とのコンサートのプログラム表紙

同コンサート風景

リヨンの朝市

写真と文　大野　登美子

ソーヌ河に沿って並ぶリヨンの朝市は、まだうす暗い早朝7時から始まる。あらゆる食材がずらりと並び、どれも新鮮。特に野菜、果物は実に色彩よくきれいに盛り付けられ、一つ一つが誇らしげだ。また秋の味覚の野うさぎ、うずら、鴨、きじなどジビエ（狩猟動物）には目を惹かれた。狩猟民族の国であると実感する。



ソーヌ河、ローヌ河という二つの水路が河や海の幸をリヨンに運ぶ。豊かな食材に恵まれたこの地が、美食の街といわれるのも頷ける。リヨンでは専業主婦が多く、朝市に出かけ、昼食に戻る家族のために腕をふるうという。（ファーストフードの店が少ないこと、スリムな人が多いことも印象的だった。）

夢中でシャッターを切る私に「このイチヂク青くて珍しいよ！ 撮るといいよ！」「日本人かい？ うちの近くに日本人が住んでてね、息子が日本語を彼に習ってるんだよ。彼はgentilだよ！」とフレンドリーな店主の声。陽気にアコーディオンを奏でる大道芸人?! 近寄って口ずさむ人々。少しひんやりした空気と青く澄んだ空のもと、心弾む朝市散策でリヨンの旅の一日が始まった。

リンゴは一盛り10F（200円余り）でした。

（筆者は「B班」の一員として11月リヨンを訪問）

リヨンのボジョレ・ヌヴォ

「日本フェスティバル」開催中の11月20日は第三木曜日にあたり、日本でも有名なボジョレ・ヌヴォの「解禁日」であった。9月に摘んで醸された葡萄酒が早くもさわやかに熟成したのを、この日の午前0時を期して競うように皆で飲み祝うのである。リヨンはボジョレ地区に至近の大都市とあって、そのボルテージは格別のようだった。街のあちこちにテントが設けられて新酒をふるまい、楽隊が景気を盛り上げる。カフェやレストランのなかでも、ご機嫌になったお客がほとんど裸でテーブルに上がって大はしゃぎ。そんな若者が窓越しに、お琴演奏帰りの振り袖姿のお嬢さんを見つけ、飛び出して来ていっしょに飲もうと熱心に誘う。そして叫んだ精一杯のあいさつは、なんと「ニイ・ア(ハ)オ！」。　(M・I)

渡辺先生の新著〈バルト以前／バルト以後〉本会にも寄贈いただく

三重大学ご在職中はフランス語入門講座の講師を引き受けていただき、また横浜市立大学に移られてからも講演をお願いするなど、三重日仏協会会員にはおなじみの渡辺芳敬（ペンネーム渡辺諒）氏は、昨秋また新しい著作〈バルト以前／バルト以後 ——言語の臨界点への誘い——〉を発表され、本会にもその一冊をお贈りくださいました。

同書の帯に記されたコピーをもってご紹介にかえますと……〈ロラン・バルト『記号の帝国』の精緻な読解を元に、異郷への関心に貫かれた作家／思想家たち——レヴィ＝ストロース、クリステヴァ、セガレン、永井荷風、村上春樹、村上龍風等を自在に往還しつつ、「絶対マイノリティ」文学としてのフランコフォン文学、ジャポノフォン文学を見出すにいたる、気鋭の仏文学／思想研究者による鮮烈な文芸批評／エッセイ〉。

発行・水声社 335ページ 3,500円

お読みになりたい方は事務局まで。

4月から「日本におけるフランス年」特別親善大使　ジャン・レノがメッセージ

1997年度の「フランスにおける日本年」に引き続き、今年4月から「日本におけるフランス年」が始まります。年末には早くもフランス大使館のクリスチャン・モリユー文化参事官より三重日仏協会に宛てて「フランス年」の概要についての文書が届きました。それによりますと、〈Année de la France au Japon〉は日仏両国民の相互理解と政治、経済、文化、科学技術面など多分野での交流をいっそう促進することを目的としたもので、日仏交流史上最大規模のプロジェクトとなるだろう、としています。そして日本の多くの国民にアール・ド・ヴィーヴル（フランス式人生の楽しみ方）や想像力豊かなフランス文化、現代フランスの多様な側面を総合的に紹介したい、とのべています。

「フランス年」は〈永遠の国フランス〉〈発明の国フランス〉〈芸術の国フランス〉〈日本人の心の中の国フランス〉の四つのテーマで構成され、セーヌ河畔の「自由の女神像」の東京移築、ドラクロワの名画「民衆を導く自由の女神」の公開、その他もりたくさんの文化、科学、産業関係のイベントが計画されています。また映画「グラン・ブルー」「レオン」などでおなじみの人気俳優ジャン・レノさん（写真）が特別親善大使（parrain）として活躍することになっており、本会にもメッセージを寄せてくれました：〈フランスの農家の人々、学者、芸術家、またビジネスマンたちは、一年間にわたるこの前例のない素晴らしい作品の、私の共演者です。ひとりでも多くの日本の方の参加を願っています〉。